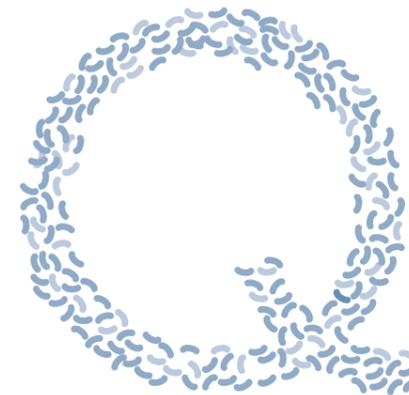




制作
QURUWAパブリック・リレーションズ (PR) 実行委員会
2025年

QURUWA 戦略



くらし創発都市とは

くらし創発都市とは

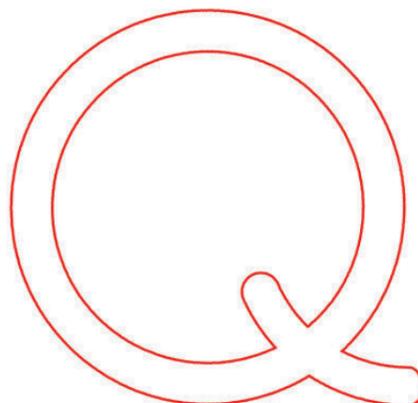
2024年に更新された、QURUWAのこれからを考える

「乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画-QURUWA戦略」で、「くらし創発都市」という考え方が提案されました。もともと改訂(案)では「生活創造都市」という言葉が当てはめられていましたが、パブリックコメントで提案されたのが、「くらし創発都市」という言葉でした。

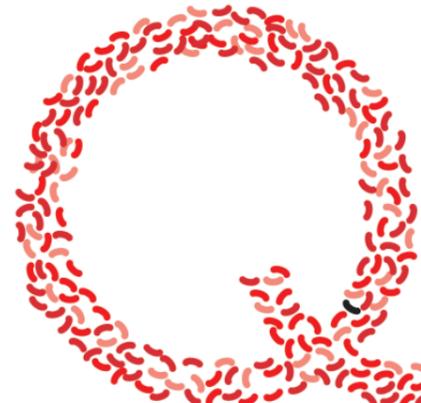
「創発」とは、魚の群れが大きな魚に見えるというシーンで有名な絵本「スイミー」のように、ある要素の集合が単なる「その集まり(魚の群れ)」でなく「異なる様相(大きな魚)」を見せること。

「生活創造都市」という言葉では、「新たな生活を創造していくべし」と、自身の日々の生活が否定されているように響いてしまうことを危惧した意見だったようです。QURUWAにくらすさまざまな人たちの取り組みが寄り合わさって、ただ「いろんな人が住んでいる」という状況を超え、外の人にとっても「訪れてみたい」「自分もその輪に入りたい」と思わせるまちなることが、その言葉によって示唆されていると感じられます。

くらし“非”創発都市イメージ



くらし創発都市イメージ



「創発」のイメージとして、左は“非”創発の「Q」。あらかじめ字の輪郭線が引かれている計画的なQ。右は創発的な「Q」。小さい要素の集まりで、中には元気のない要素はあっても、周りの元気な要素につられて、全体としては健やかな赤になっています。

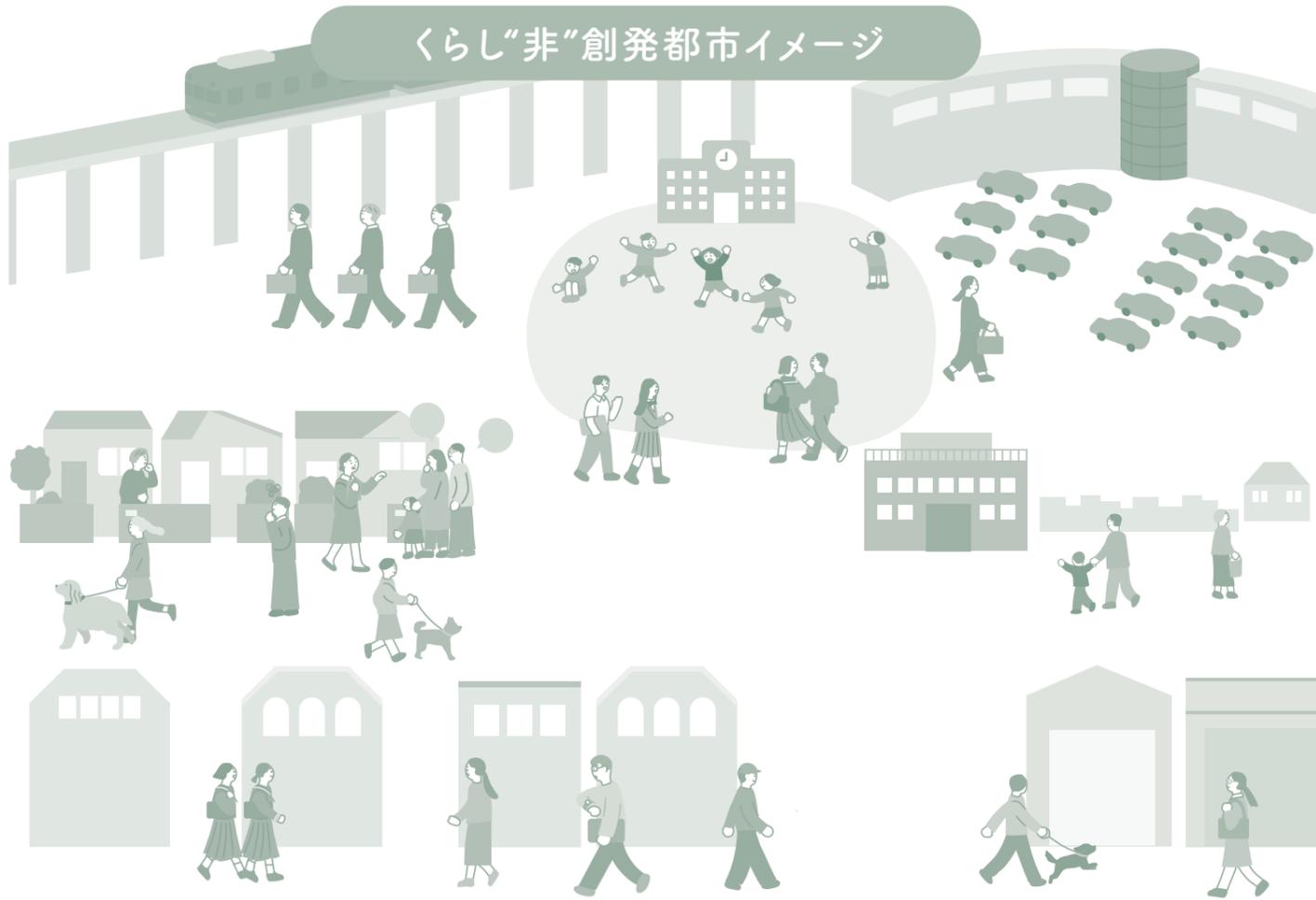
QURUWAの魅力も同じように、人々のくらしが「生活の集まり」を超えて、その集合によって「内外の人にとって魅力的な都市」が生まれているところにあります。

「くらし創発都市」とは、トップダウンの「都市計画」とも、ボトムアップの「まちづくり」ともちょっと違っていて、人々の自分らしい暮らしとまちへの思いがかけあわさって生まれるものではないかと考えています。

内面で、創発「ではない」都市との比較で「くらし創発都市」を素描してみたいと思います。

みなさんはこの都市像をどう思いますか？

くらし“非”創発都市イメージ



くらし創発都市イメージ



● 誰もが自分の敷地の中だけに閉じてしまう

● 同じような物件が立ち並び、暮らし方も似通っている

● 外に出るとしても家と目的地の往復だけ
● 客がないのでそのエリアで商いをしようとする人がいない

● 産業は都市の外にあり、ベッドタウン化している ● 新しい産業が起こる気配がない

● 滞留できる場所がないのでパブリックスペースで会話が
● 外に人の居場所がない

● 高齢者は施設に入る

● 教育は学校でのみおこなわれる
● 学ぶのは小学校から高校生まで

● 移住する目的は家の安さか利便性の良さだけ

● 隣の人が何をしているかわからない ● 都市の課題について考える機会がそもそもない
● (例えば)空き家が生まれても対処のしようがない

● そこでの暮らしに居心地がいい人も、土地に思い入れがないので居着かない
● 暮らしの質がいま以上になることはない

● ロードサイドやショッピングモール等のナショナルチェーンを中心とした消費
● ナショナルチェーンでの消費が主のため、税金(法人市民税)は一向に上がらない。

敷地に価値なしエリアに価値あり

その都市での暮らし方

寄り道ができる都市/できない都市

産業[=その都市の人たちが生活していくための仕事]とのかかわり

人の居場所がある都市/ない都市

終のすみか

教育について

移住の目的

課題と向き合い方

くらしの質の向上

地域経済循環

● そこですらすら人たちのこと(=エリア)を考え、くらしを開いている人がいる

● 色とりどりの住まいがあり、一人一人働き方や暮らし方が異なる

● 外に寄り道の目的になるお店や催しなどがある
● 自分の趣味や特技を生かしてお店やサービスをそこではじめようとする人がいる

● 自前の産業を持ち、小さいながらも新しい産業の芽が生まれている ● その都市で新しい雇用が生まれる

● 家の前にベンチをおいて通行人が休めるようにしている人もいる
● 外からの人を受け入れる雰囲気があり、外から来る人の居場所もある

● ここで最期を迎えたいと思える ● 高齢者がまちなかで過ごす居場所がある

● 学校のみならず、エリアでのインターンなど、学びあいの機会がある
● その都市の中で、老いても若きも学ぶことができる

● その都市での暮らし方の多様性を目的に、移住者が生まれる

● 都市の課題について取り組む人たちがいる ● それについて考えたり話し合ったりする機会がある

● くらし方を選び取ることができるので、くらしの質が向上する
※くらしの質の向上:一人一人にとって居心地のいいくらしができるようになること
● 「ここでなければ」という人が増える

● ここにしかないローカルショップのサービスを楽しむ、満足感の高い納得した消費
● お互いのサービスを受け合うことにより応援し合い、小さな経済圏をつくっている
● それにより税金(市民税、法人市民税、固定資産税)がアップして持続可能な都市経営に資する